



環境報告書 2001

JR東日本の環境問題に対する取り組み



東日本旅客鉄道株式会社

エコロジー推進委員会



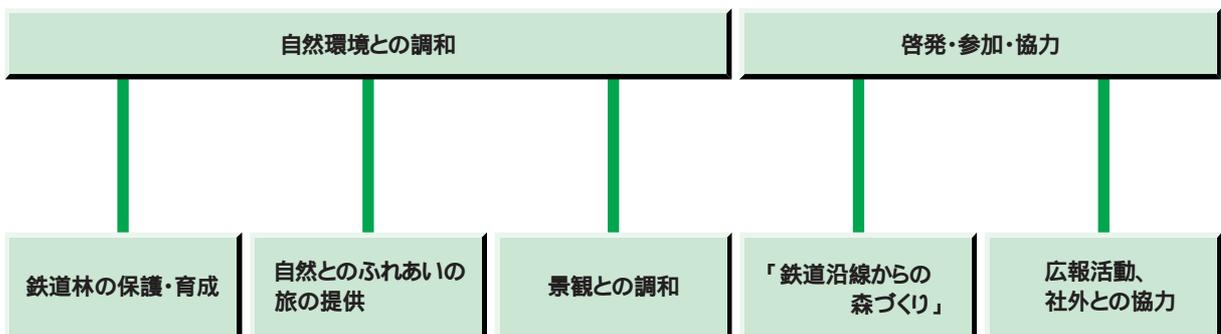
5.環境への社会的取組み

当社の約7,500kmに及ぶ沿線には、鉄道を雪や風などから守るために設けられた鉄道林をはじめとする豊かな自然が数多くあります。こうした、豊かな自然を守り育てていくことも当社にとって重要な課題です。また、グループ会社を含めた社員全員が環境問題に正しい認識を持ち、一日約1,600万人という当社をご利用になるお客様に環境問題の大切さを訴えていくことも企業の環境への取組みの大きな要素です。JR東日本では、さまざまな機会を捉え、環境を大切にすることを輪を広げています。

目標と進捗状況

項目・目標	2000年度実績
毎年具体的な環境保護活動	12カ所 2万本 参加者2千人

JR東日本の環境への社会的取組み





自然環境との調和

鉄道林の再発見

森林の機能はさまざまなものがあり、日本の鉄道はその黎明期からさまざまな自然の脅威を森林により防いできました。およそ100年前、1893年、東北本線の水沢～青森間で地吹雪から鉄道を守るため、鉄道林が設けられました。以後、吹雪防止や土砂崩れ防止などの目的のため、各地で鉄道林が設置されました。現在でも当社は約4,400ヘクタール、立木数にして約600万本の鉄道林を所有しています。これらの鉄道林は、年間でJR東日本が排出するCO₂の0.6%にあたる1.7万tのCO₂を吸収することができるほか、豊かな自然を育てており、鉄道林を守り育てていくことも当社の使命と考えています。

「森林の公益的機能の評価額について」(2000年9月6日林野庁プレスリリース)をもとに算出しています。

自然環境と旅行

旅行を通じて素晴らしい自然に出会うことは、環境の大切さを理解するまたとない機会です。当社は、自然との関わりをテーマにさまざまな旅を提供しています。JR東日本が提案する「あたらしい旅」のコンセプトにも「地域との交流」を掲げ、当社と地域の皆様と共同で滞在型の宿泊施設を整備しています。地域の自然、人、文化、資源を極力活かすことで、自然保護と地域の活性化の両立が可能と考えています。これからも自然の魅力と環境保全の大切さを伝えることができる旅づくりを心がけていきます。

景観との調和

鉄道の建設や大規模改良などの開発事業を進めていくにあたっては、景観との調和にも配慮しています。構造物や建物の安全性、耐久性と環境との調和の調査、検討などさまざまな取り組みを進めています。

2000年度には、さいたま新都心駅がグッドデザイン賞と2000彩の国さいたま景観賞を、最上広域交流拠点施設を併設した新庄駅が鉄道建築協会における運輸省鉄道局長賞を受賞しました。



鉄道林

自然とのふれあいの旅実施例

白神山地	(4月～11月)	804名
野山を歩こう	(4月～11月)	1,477名
森の湯紀行	(4月～3月)	1,044名
北海道自然の村	(7月～8月)	102名
ふくしま遊学	(7月～8月)	538名
トレッキング IN 山形	(7月～8月)	353名
やまがた休暇	(7月～9月、1月～3月)	481名



さいたま新都心駅

啓発・参加・協力

「鉄道沿線からの森づくり」

JR東日本では、環境の大切さをできるだけたくさんの人に知っていただくために、さまざまな活動を展開しています。そのなかでも、鉄道沿線に緑を増やす活動は、「鉄道沿線からの森づくり」と名付け、1992年以降JR東日本エリアの鉄道沿線の各地に、毎年植樹を実施しています。これは、JR東日本グループ社員のボランティア活動によるもので、地域の皆様にも参加していただいています。また、JR東日本グループ社員からも募金を集め、その費用の一部に充てています。

人にやさしい鉄道づくり

JR東日本では、高齢化社会・国際化社会の進展にあわせ、身体の不自由なお客さまのみならず、鉄道のご利用に慣れていないお客さまにとっても、安心してご利用いただける鉄道づくりを推進しています。

まず、エレベーターとエスカレーターの整備を、2000年11月に施行された「交通バリアフリー法」もふまえて進めています。2010年までに原則として、エレベーターは1日あたり乗降人員5,000人以上かつ高低差5m以上等の駅（約390駅）の全ホームに、エスカレーターは乗降人員10,000人以上かつ高低差5m以上等の駅（約300駅）の全ホームに整備します。なお、エスカレーターの設置にあたっては、列車の発着間隔が長い駅などでは、お客様がご利用される時のみに自動的に運転する省エネルギー型のものも採用しています。

また、駅の案内表示は大きな文字とピクトグラム（絵文字）によるわかりやすいデザインに改善を進め、車いす使用、高齢者、乳幼児連れなどのお客さまにもご利用しやすい多目的トイレ等も整備してまいります。



「鉄道沿線からの森づくり」



駅に設置したエスカレーター

広報活動・社外との協力

2001年3月から2001年4月にかけて、お客様に環境の大切さを訴えるため、エコロジーキャンペーンを展開しました。その一環として、WWFジャパン（財団法人世界自然保護基金ジャパン）と共同で「エコトレイン2001」1編成を山手線で運行しました。これは、先頭・最後尾車両の車体全面に、自然環境の循環をイメージしたデザインをラッピングするとともに、全車両（11両）の車内において環境保護をテーマとしたポスターを掲出しました。

この他、JR東日本の環境問題に対する取り組みをよくご理解していただくため、また、社会全体の環境意識の向上のため、さまざまなメディアを通して広報活動を展開しています。

環境コミュニケーション

JR東日本では、ホームページ上にエコロジーのページ（<http://www.jreast.co.jp/eco/>）を設け、環境報告書の概要を解説するとともに、全文をPDFファイルの形式で提供しています。また、ご感想やご意見をEメール（eco@jreast.co.jp）でお送りいただけるようにしています。

環境報告書にもアンケート用紙を添付しており、このアンケート用紙とEメールを合わせ、前年度は多くの方からご意見をいただきました。今回は、このような皆様のご意見を反映させ、より分かりやすい身近な環境報告書となるよう努力いたしました。

今後とも、環境報告書をご覧になってお気づきになった点、JR東日本の環境活動に対して日頃お感じになっているご質問・ご意見等ございましたら、ぜひお送りいただくようお願いいたします。



エコトレイン2001



新聞広告

